

資料

2014年 くらしと協同の研究所
第22回 総会記念シンポジウムのご案内

確定版

- ◆日程 6月28日(土) 13:00 シンポジウム
17:00 第22回総会
18:00 懇親会 19:30 中締め
6月29日(日) 9:30 テーマ別企画(分科会) 12:30 終了

◆申込締切り
6月16日(月)

- ◆会場 京都テルサ 受付場所 28日(土) 東館3階ロビー
29日(日) 東館2階ロビー(2日目のみ参加者)

6/28 シンポジウム

生協事業のイノベーション
～いま、コープみやざきを研究する意味～

(趣旨)

くらはは変化し続けています。少子高齢化や雇用形態の変化によって、貧困・格差・不安などの問題をめぐって組合員のくらしには大きな変化が起きています。また、依然として増加の一途をたどるショッピングセンター、コンビニ宅配やミニスーパーの急速な拡大など、流通業も変化し続けています。競合もその形態を変えつつ激しさを増しています。生協事業は、くらしの変化と流通業の構造変化という2つの難問に直面しながら、各地ではさまざまな取り組みも進んでいます。では、こうした課題に、生協の役職員は、組合員とともに、どのような機能を備えた組織をつくって立ち向かおうとしているのでしょうか。また、いま生協の経営管理に必要とされていることは、どのようなことなのでしょう。

くらしが日々変化し続けているいま、生協にイノベーション(事業の革新)が求められていることは間違いないように思われます。コープみやざきは、この30年間、日常的な「継続改革」に取り組むことによって、現在の地歩を築いてきました。とくに、組合員さんの声を聴いて事業運営に生かしていく努力を続ける生協として知られ、そのことを可能にしている職員組織にも関心が寄せられています。

では、わたしたちが、このコープみやざきの実践を研究する意味はどこにあるのでしょうか。そして、いま、生協に求められているイノベーションはどのようなものなのでしょう。これらの点をめぐって、生協の役職員と研究者が多面的な視点から意見交換する場を設けたいと思い、今回総会記念シンポジウムを企画しました。組合員や職員、多くの生協事業の関係者の方々も、役職員と研究者の真剣な議論に触れることによって、生協事業の可能性や展望について考える機会にさせていただければ幸いです。

くらしと協同の研究所理事長 的場 信樹

くらしと協同の研究所

〒604-0851 京都市中京区夷川通烏丸東入ル西九軒町 291 せいきょう会館2F
TEL 075-256-3335 FAX 075-211-5037
E-mail kki@ma1.seikyoku.ne.jp (1は数字) URL <http://www.kurashitokyodo.jp>

6月28日(土) 13:00~16:50 シンポジウム <東館3階 大会議室>

13:00 開会

13:05 問題提起

「生協事業のイノベーションとは何か?~コープみやざきを研究する意味~」

的場 信樹 (本研究所理事長・研究委員、佛教大学社会学部教授)

第1部 報告とコメント

13:30 「コープみやざきの30年の実践 ~『継続改革』の視点から~」

真方 和男 (生活協同組合コープみやざき専務理事)

14:20 コメント: 玉置 了 (本研究所研究委員、近畿大学経営学部准教授)

北川 太一 (本研究所研究委員会副委員長、福井県立大学経済学部教授)

第2部 パネルディスカッション

15:25 コーディネーター: 的場 信樹 (佛教大学教授)

パネリスト: 森 宏之 (市民生活協同組合ならコープ理事長)

山本 靖郎 (生活協同組合コープおきなわ理事長)

真方 和男 (生活協同組合コープみやざき専務理事)

北川 太一 (福井県立大学教授) 玉置 了 (近畿大学准教授)

16:50 閉会

17:00 第22回総会

18:00 懇親会 <東館1階レストラン朱雀> 19:30 中締め

6月29日(日) 9:30~12:30 分科会(テーマ別企画)**第1会場** <東館2階 中会議室>**「組合員の暮らしを知ること・活かすこと ~『パーティ』を通じた取り組みの共有~」**

趣旨: 昨年度、報告者らは全国各地の生協にご協力を頂き、おしゃべりパーティの調査に取り組みました。調査を通じて、パーティに取り組む生協の多くが悩みを抱えつつも、知恵を出して問題を解決しようとする実態が明らかになりました。中でも、「生協らしさ」に繋がる組合員の暮らしに基づいた多様な声を聞く機会として、パーティを活用する方法については、各生協で真剣な模索が続けられていました。本企画は、2013年度のパーティ調査の到達と、各生協のパーティに関わる独自の工夫を共有化し、パーティの活性化に貢献することを大きな目的として開催します。

報告: 加賀美 太記 (就実大学経営学部専任講師) 青木 美紗 (奈良女子大学生生活環境学部助教)

片上 敏喜 (奈良女子大学社会連携センター特任助教)

第2会場 <東館3階 D会議室>**「TPPとは何か ~多国籍企業による食と農の支配にどう立ち向かうか~」**

趣旨: TPPは問題が大きすぎて、出口が見えないし、「つかみどころがなくて手に負えない」というのが多くの皆さんの実感のようです。そこで、生協にとってもっとも身近な食と農とTPPとのかかわりに絞って学んでみてはいかがでしょうか。組合員、役職員がTPPにかかわって何をなすべきかをより身近に知ることができるのではないのでしょうか。澄んだ眼ですなおにTPPについて学びましょう。TPPに関しては、「遅すぎた、取り返しがつかない」ということは永遠にないのですから。

コーディネーター: 小池 恒男 (本研究所研究委員、滋賀県立大学名誉教授)**報告:** 鎌谷 一也 (鳥取県畜産農業協同組合組合長)

福永 晋介 (京都生活協同組合店舗商品部地産地消推進担当)

第3会場 <東館2階 視聴覚室>**「東日本大震災から私たちは何を考えるのか ~ぢほこくな! (うそつくな)!」**

趣旨: 総会記念シンポでは大震災直後から毎年、「暮らし」と「協同」という立脚点で特別分科会「震災交流会」を開催してきました。2011年は被災地域からの現状報告、2012年は福島農協、医療生協、購買生協の実践と協同組合間の連帯、2013年は震災後の暮らしの変化に協同組合がどう向き合っているかを検証してきました。4回目の今年は、首相のうそで誘致した東京オリンピック開催で忘れ去られようとしている東日本大震災(地震・津波・原発)について、「私たちは何を考えるなくてはならないか」を掘り下げる機会としたいと考えます。

コーディネーター: 上掛 利博 (本研究所研究委員、京都府立大学公共政策学部教授)

久保 建夫 (本研究所客員研究員)

話題提供: 高橋 晴雄 (四街道市アオギリの会世話人) 金井 直子 (福島原発避難者訴訟原告団事務局長)